

小樽商科大学 卒業論文（昭和28年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和28	148	中小企業とその金融対策	
昭和28	149	小売商とその経営方策について	
昭和28	150	百貨店PRの根幹となる経営体内の人間関係の在り方	
昭和28	151	証券取引所とその機能	
昭和28	152	現代小売機関の研究	
昭和28	153	近代企業経営における市場調査の重要性	
昭和28	154	我国投資信託の理論と実際について	
昭和28	155	中小小売業経営に於ける会計の新構想	
昭和28	156	昨今の中小企業金融問題とその対策	
昭和28	157	市場分析論について	
昭和28	158	中小企業の経営合理化とその対策	
昭和28	159	資本主義下に於ける協同組合	
昭和28	160	広告経済論 特にパブリック・リレーションズ広告を中心とした広告効果の研究	
昭和28	161	我国に於ける配給組織の発展に就いて	
昭和28	162	市場静態分析の考察	
昭和28	163	企業経営の合理化 -戦後我国産業の合理化展望-	
昭和28	164	信用創造について -その限界の問題を主に-	
昭和28	165	証券資本主義の理論的歴史的研究	
昭和28	166	科学的販売予見の構成に就いて -市場調査法の応用を中心として-	
昭和28	167	証券市場の発展段階的考察と我が国証券市場の将来について	
昭和28	168	卸売経営に於ける市場分析 -小樽市に於いて実施した消費調査を中心として-	
昭和28	169	中小企業の所在と金融の問題点	
昭和28	170	労使のあり方 -企業合理化を中心として-	
昭和28	171	市場調査の研究	
昭和28	172	新経営者の性格に関する若干の考察 -J.Burnhamの所説を中心に-	
昭和28	173	中小企業と協同組合に就いて	
昭和28	174	中小企業の経営不振打開とその発展対策	
昭和28	175	広告の経済学的研究	
昭和28	176	中小企業とその金融問題についての一考察	
昭和28	177	貯蓄投資論争	
昭和28	178	恐慌とその意義	
昭和28	179	近代雇用理論の展開	
昭和28	180	減価償却と利子の問題	
昭和28	181	割賦販売とその収益に関する問題	
昭和28	182	標準比率分析論の発展史的考察 -肯定的見解と批判的見解-	
昭和28	183	売価棚卸法に関する若干の考察	
昭和28	184	グッドウィル論	
昭和28	185	企業利益の監査 -利益経営について-	
昭和28	186	原価としての利子の意義に関する若干の考究	
昭和28	187	収益の発生と実現	
昭和28	188	貨幣価値変動期に於ける減価償却論 -特に評価論を中心として-	
昭和28	189	原価差額処理の理論 -特に標準原価差額について-	
昭和28	190	収益・費用の期間限定について	
昭和28	191	総合的経営分析の方法	
昭和28	192	資本剰余金に於ける若干の考察	
昭和28	193	減価償却における利子について	
昭和28	194	会計における保守主義と低価主義	
昭和28	195	リカド価値論及びその価値学説史上に占める位置	
昭和28	196	損益計算論序説	
昭和28	197	損益計算書の報告機能をめぐって	
昭和28	198	評価諸原則 特に低価主義評価に就いて	
昭和28	199	減価償却理論の時価主義の優位性	
昭和28	200	減価償却の研究	
昭和28	201	比率分析 -特に関係比率の分析に就いて-	
昭和28	202	発生主義・実現主義及び費用収益対応についての一考察	

小樽商科大学 卒業論文（昭和28年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和28	203	スミス価値論の研究	
昭和28	204	(抄訳)ポール・アインツヒ著 『為替管理』	
昭和28	205	輸出信用危険と国家保証	
昭和28	206	(翻訳) サルター.S.A.著 『海外投資』	
昭和28	207	British Exchange Control, Translation from "the ABC of the foreign exchange" by N. Crump	
昭和28	208	国際鉄鋼カルテル	
昭和28	209	為替管理と双務協定 -金本位制度から多角決済方式への推移と其の展望-	
昭和28	210	リカドゥ外国貿易論序説	
昭和28	211	国際貿易協定-関税及び貿易に関する一般協定-の展開と考察	
昭和28	212	国際通貨基金と現代の為替政策 為替制限撤廃を繞って	
昭和28	213	The Trade of Nations. Book 2. By Michael A. Heilperin	
昭和28	214	外国貿易理論の発展	
昭和28	215	貿易業者をめぐる諸問題	
昭和28	216	スターリング地域の諸問題 -特に濠州を中心として-	
昭和28	217	貿易政策としての「ガット」の意義	
昭和28	218	世界貿易の動向と貿易政策	
昭和28	219	The Trade of Nations—Book I —By Michael A. Heilperin	
昭和28	220	国際決済制度の推移	
昭和28	221	米国と国際投資	
昭和28	222	国際分業を廻る貿易政策についての一考察	
昭和28	223	商業信用状の法律体系に関する一研究	
昭和28	224	貨物保管の面より見たる一貿易振興策について	
昭和28	225	産業構造より見た本邦貿易の課題	
昭和28	226	英国自由貿易史上に於ける穀物法の廃止に就いて	
昭和28	227	メンガー「国民経済学原理」に於ける価値の理論、及び価格構成の理論に就いて	
昭和28	228	リカドゥ価値論の研究	
昭和28	229	社会経済制度の発展	
昭和28	230	アダム・スミス「社会資財一般」の分類と資本蓄積論	
昭和28	231	所得の分配とハイエクの景気理論 -ハイエク経済学の批判-	
昭和28	232	マルサス・リカドオの価値論及び価値論争	
昭和28	233	アダム・スミス価値論を中心とした経済学説の一考察	
昭和28	234	マルクス経済学「価値の本質」	
昭和28	235	スミス資本論研究	
昭和28	236	アダム・スミスの資本論の考察	
昭和28	237	独占段階に於ける企業利潤と資本主義	
昭和28	238	市場理論と恐慌論	
昭和28	239	ケインズ「一般理論」に於ける「古典派理論」の批判に関する一素描 特にその「雇用理論」の批判とケインズ経済学	
昭和28	240	価格水準に関する一考察	
昭和28	241	重農学派とその社会的背景 -租税論を中心として-	
昭和28	242	消費者選沢一般理論の研究 -ヒックス経済学研究序説-	
昭和28	243	雇用と失業に関する若干の考察	
昭和28	244	売価棚卸法の評価的意義について	
昭和28	245	建設利息の性質に関する考察	
昭和28	246	社債割引料に関する一考察 -未払利子説による通説の批判-	
昭和28	247	成果計上の原理	
昭和28	248	Lost-in, First-out Method (後入先出法)	
昭和28	249	棚卸資産評価における低価主義	
昭和28	250	会計学に於ける利子の取扱に就いて	
昭和28	251	会計における保守主義	
昭和28	252	貨幣価値変動会計	
昭和28	253	営業権科目について	
昭和28	254	損益計算の基礎概念及び費用原則	
昭和28	255	費用収益の認識の諸基準について	

小樽商科大学 卒業論文（昭和28年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和28	256	創業費について	
昭和28	257	会計理論と会計原則の適用に関する一考察 -特に意見書の未収収益をめぐって-	
昭和28	258	資本準備金の源泉及びその用途	
昭和28	259	資本的支出と収益的支出 -原価確定後の支出額をめぐって-	
昭和28	260	貨幣価値変動と減価償却	
昭和28	261	原価概念と原価会計 -取得原価主義と未来原価主義-	
昭和28	262	企業会計原則「単一性の原則」の検討	
昭和28	263	固定的経営設備の評価 -貨幣価値変動期に於ける評価を問題として-	
昭和28	264	実現主義及び実現のテストたる基準	
昭和28	265	損益計算諸基準の考察	
昭和28	266	勘定理論の把握に関する覚書 -理論構成の立場について-	
昭和28	267	減価償却の表示 -経営設備を捉えて-	
昭和28	268	森林アクリーション会計	
昭和28	269	資産評価の基準に関する若干の考察	
昭和28	270	減価償却について	
昭和28	271	古典派国際収支調整論批判	
昭和28	272	国際通貨基金と国際復興開発銀行 -By A.H.Hansen "America's Role in the World Economy"を中心として-	
昭和28	273	資本蓄積と国際貿易	
昭和28	274	M. ポラニー完全雇用と自由貿易	
昭和28	275	国際貿易と国民所得乗数	
昭和28	276	ケインズ直観確率論	
昭和28	277	企業に於ける制度的方法 -コモンズの所論を中心として-	
昭和28	278	経営管理組織の合理化について -管理組織の職能化と階層化の問題を中心として-	
昭和28	279	産業に於ける人間関係	
昭和28	280	予算統制に関する概括的考察 三つの目標より派生する問題を中心として	
昭和28	281	トップ・マネジメント小論 -その機能と組織を中心として-	
昭和28	282	小農民層の発展	
昭和28	283	アメリカ経済構造の分析	
昭和28	284	コスミンスキー著「十三世紀の賦役と貨幣地代」	
昭和28	285	生産過程分析	
昭和28	286	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神について	
昭和28	287	ミケランジェロ	
昭和28	288	フランス絶対王政の成立と土地所有形態の変遷過程に就いて	
昭和28	289	アメリカ独占資本主義の確立 -産業集中とトラスト禁止法を中心として-	
昭和28	290	初期資本主義の成立と市民革命 -所謂「二つの途」の理論-	
昭和28	291	中世の成立に関する研究史的考察 -ドプシュ・ピレンヌを中心とした中世の成立史-	
昭和28	292	トマス・モアと「ユートピア」	
昭和28	293	イギリス産業革命史研究	
昭和28	294	離路に関する若干の考察	
昭和28	295	船荷証券上の免責約款の効力について	
昭和28	296	我国 Standard Cargo Policy に於ける Bare Body の統一的解説	
昭和28	297	商業空運企業の成立要素の分析	
昭和28	298	海上売買と海上保険 -シフ契約及びFOB契約と海上保険-	
昭和28	299	日本経済と日本海運の現況	
昭和28	300	共同海損に関する研究 投荷を中心として見たる共同海損の歴史的変遷と各国法規の比較	
昭和28	301	委付論	
昭和28	302	再保険 -その一層の研究の為に-	
昭和28	303	社会保険の概念	
昭和28	304	資本主義と保険	
昭和28	305	戦争危険と保険について	
昭和28	306	資金管理に於ける若干の問題点について	
昭和28	307	損益分岐点の経営管理上の効果とその限界	

小樽商科大学 卒業論文（昭和28年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和28	308	賃金制度に関する一考察	
昭和28	309	作業組織の職能と合理化	
昭和28	310	組織構成を中心としたトップマネジメントの考察	
昭和28	311	作業研究に関する若干の考察	
昭和28	312	内部統制組織に関して	
昭和28	313	予算統制に関する一考察 -販売予算の編成をめぐって-	
昭和28	314	経営合理化と人間関係	
昭和28	315	赤字予算の乗数効果	
昭和28	316	ケインズに於ける貨幣的経済理論の性格	
昭和28	317	ケインズ「一般理論」に於ける「貨幣賃金の硬直性」について	
昭和28	318	ケインズ経済学に於ける哲学的周辺	
昭和28	319	ケインズ『一般理論』覚書	
昭和28	320	賃金・雇用理論 -ケインズ理論とその発展-	
昭和28	321	ロビンソンに依る一般理論一般化の試みについて	
昭和28	322	利子率と最適消費性向	
昭和28	323	ケインズ「一般理論」体系に関する一考察	
昭和28	324	ケインズ体系と一般均衡理論	
昭和28	325	戦後日本経済の実証的研究 -構造的特質を中心として-	
昭和28	326	経済理論における分析方法に関連してケインズ理論と対比してのランゲの理論	